

# 2016年度 自己点検・評価【理工学研究科】

C票

## <目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2017年2月23日

責任者	理工学研究科委員長	作成部局	理工学研究科
-----	-----------	------	--------

### 2021年度に向けた教育研究目標

#### 【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

高度な専門的知識を有し、国際的舞台上で活躍できる高度専門職業人の育成(博士課程前期課程)。

(狙い内容)

前期課程においては、自然科学について幅広い、そして深い理解力を培うとともに、専攻分野における研究能力と高度な専門性を必要とする職業に柔軟に対応できる能力を養う。

= 数理学専攻 =

前期課程においては、数学の基礎理念の修得を柱としながら、自然科学はもとより、社会科学への応用まで視野に入れ、数理学の高度な知識と基礎的研究能力を養い、社会の幅広い分野で、専門性の高い職業に従事できる人材を育てる。

= 物理学専攻 =

前期課程においては、自然科学の基礎である数学の基礎学力を深め、ミクロからマクロまでの物理学の基本法則の理解力を培う。数学・物理学の基礎能力を基盤として、論理的思考方法に立脚した研究能力、高度な専門性を必要とする職業に柔軟に対応できる能力を養う。

= 化学専攻 =

前期課程においては、化学分野の幅広い知識と深い理解力を培い、これらを基礎とした研究能力および英語で成果を英語で公表できる能力の養成、TA制度による卒研生の指導、留学生・ポスドクとの交流による国際化を通じて、高度専門職業人になるための育成指導を行う。

= 生命科学専攻 =

前期課程においては、生命科学分野における幅広い知識と深い理解力を培うとともに、これらの知識を基礎とした研究能力及び成果を英語で公表できる能力、さらに高度な専門性を必要とする職業に柔軟に対応できる能力を養う。

= 情報科学専攻 =

前期課程においては、情報科学の幅広い知識と深い理解力を培い、これらの知識と理解力を基礎とした研究能力及び高度な専門性を要とする職業に柔軟に対応し、健全な情報化社会の構想を立案できる能力を養う。

= 人間システム工学専攻 =

前期課程においては、人間システム工学の幅広い知識と深い理解力を培い、これらの知識と理解力を基礎とした研究能力、及び高度な専門性を必要とする職業に柔軟に対応し、人を中心とした新しいシステムを創出できる能力を養う。

#### 1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

高度な専門的知識を獲得に対する学生の意識が高く、英語で研究交流ができる学生が育っていること。

#### <変更時記入欄>

高度な専門的知識の獲得に対する学生の意識が高く、英語で研究交流ができる学生が育っていること。

#### <変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

日本語表記の誤植の修正

#### 2. 達成度評価

評価指標	評価尺度	変更有無
修論審査基準の開示 修士学生の学会(論文のみを含む)発表数(うち国際学会数) <変更時記入欄>	A : 基準が周知され、国際学会発表数が150件以上 B : 基準が開示され、国際学会発表数が137件以上 C : 基準が設定され、学会発表が367件以上 D : 基準が設定されず、学会発表が367件未満 <変更時記入欄> A : B : C : D :	有(無)

#### 3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D	C	B	A	A	A	A	有(無)
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> D	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 基準が設定されず、学会発表数が267件	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 基準が設定され、学会発表数が367件以上					

#### 【2016年度の進捗状況について】

新学科開設にともない、博士前期課程大学院生の指導教員数が増えたことから学会発表数の増加を見込んでいる。

#### <変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

### 2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか?	→ はい( ) いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>	
①理由:	
②今後必要な取組み:	

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 順調に推移しており、大変評価できます。(A)
- ・ 国際学会での修士学生の発表数は、順調に推移しています。(E)
- ・ 設定された数値が伸びており、順調に進展しています。(G)
- ・ 修士学生の学会発表数とそのうちの国際学会数という評価指標は具体的かつ適切です。また、専攻ごとに必要な専門性等が記載されているので、目標と学生の姿が適切に関連付けられています。なお、今後、新学科開設に伴い発表数等は自然に増加が見込まれますが、評価尺度の%は2015年度の体制に基づく割合ですか、又は、増加する学生数は考慮しないで絶対数の増加を示すのですか。(H)

**【A票:教育研究目標2】**

(タイトル)

自立した研究者として必要な深い専門知識と研究遂行能力をもつ人材の育成(博士課程後期課程)。

(狙い内容)

後期課程では、専攻分野において自立した研究活動を行うことができる高度な研究能力と、その研究能力を生かして深い専門知識を必要とする職業に従事する能力を養う。

= 数理科学専攻 =

後期課程においては、数理科学の分野における自立した研究者にとって必要な高度で専門性の高い研究能力を培い、深い専門知識を必要とする分野で活躍できる人材を育てる。

= 物理学専攻 =

後期課程においては、数学・物理学を基礎とする発展分野において新しい領域の開拓に必要な問題解決能力と自立した研究活動を行うことができる高度な研究能力、その研究能力を生かして深い専門知識を必要とする職業に従事する能力を養う。

= 化学専攻 =

後期課程においては、さらに高度な専門性を高め、国際学会での発表、英文論文作成の指導、書籍・総説の執筆による幅広い研究能力の養成を行う。

= 生命科学専攻 =

後期課程では、生命科学分野において自立した研究活動を行うことができる高度な研究能力と海外でも活躍できる国際性を培い、その研究能力を生かして深い専門知識を必要とする職業に従事する能力を養う。

= 情報科学専攻 =

後期課程では、情報科学分野において自立した研究活動を行う高度な研究能力とその能力を生かして深い専門知識を必要とする職業に従事し、さらに健全な情報化社会の構築を技術面と倫理面からリードする能力を養う。

= 人間システム工学専攻 =

後期課程では、人間システム工学分野において自立した研究活動を行う高度な研究能力と、その能力を生かして深い専門知識を必要とする職業に従事し、さらに新たな価値や産業を創出する能力を養う。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

専門知識を深めるとともに関係分野についての広い知識を持ち、自らの研究テーマを設定してそれを遂行できる学生が育っている。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	学会発表数、学振研究員への採用数、学内研究奨励金への採択数 (2014年度実績:学会発表数未集計、学振研究員2名、研究奨励金5名)	評価尺度	A:120%以上 B:110%~120% C:100%~110% D:100%未満	変更有無  有(無)
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		C	C	C	B	B	A	A	有(無)
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> C	見込み	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> C					
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 学振研究員3名 研究奨励金5名		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 学振研究員3名 研究奨励金5名					

【2016年度の進捗状況について】 ←

2015年度の採択数, 修了者, 新規採択見込みを勘案してこの数字とした。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? →  はい  いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 計画どおり、順調に推移しています。(A)
- ・ 学会発表数の具体的な数の記載が望まれます。(E)
- ・ 学会発表数、学振研究員への採用数、学内研究奨励金への採択数という評価指標は適切です。(H)
- ・ 「2016年度の進捗状況について」の記載欄に2016年度の状況(実績・見込み等)を記載することが望まれます。(I)

**【A票:教育研究目標3】**

(タイトル)

国際性豊かな研究環境の整備と国際的研究交流の推進。

(狙い内容)

大学院の教育・研究活動に多数の外国人学生、外国人研究者が参加できるよう努力し、また、大学院生が国外の学会で積極的に発表するなど、国際性豊かな教育と研究を進める。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

大学院の教育・研究活動に多数の外国人留学生、外国人研究者の参画を促進努力し、入学者数を増加させる。また、大学院生の国際学会発表・海外留学を奨励するなど、国際性豊かな教育と研究環境の拡大を推進する。「国際バカロレア」を活用した大学院入試の枠を設置する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	外国人留学生・外国人研究者の受け入れ人数、及び大学院生における国際学会における発表参加比率	評価尺度	A : 20%アップ B : 10%アップ C : 5%アップ D : 現状維持(100%)	変更有無
	<変更時記入欄> ※上記の評価指標を変更する場合は、こちらに変更内容をご記入ください。		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		D	D	C	C	B	B	A	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	見込み	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> D					
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 留学生23人 外国人研究者2名 学会発表参加者数 64(28)		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 現状維持					

【2016年度の進捗状況について】 ←

2016年9月現在の調査結果をもとに本票を作成しているので現状維持とした。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? →  はい  いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・ 今後の目標達成が期待されます。(E)
- ・ 2016年度の進捗状況は現状維持になっていますが、PDCAサイクルの状況を把握するためには、2016年度は具体的にどのような取組みが行われたのか記述することが望まれます。(F)
- ・ 今後順調な進展が期待されます。(G)
- ・ 外国人留学生・外国人研究者の受け入れ人数、及び大学院生における国際学会における発表参加比率の増加という目標、及びそれらを評価尺度とすることは適切です。(H)

**【A票:教育研究目標4】**

(タイトル)  
他機関との連携による研究の活性化

(狙い内容)  
他の大学院、研究所との連携を推進し、大学院の教育と研究に広がりを持たせ、内容の充実と一層の活性化に役立てる。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

外部の他機関との連携を積極的に行い、外部機関と協力しながら研究と大学院生の教育を推進する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	連携により招聘した国内客員教員数、連携を通じて発表された修士論文、博士論文の合計数	評価尺度	A : 客員教員数32名以上、論文数20報 B : 客員教員数28名以上、論文数15報 C : 客員教員数24名以上、論文数13報 D : 客員教員数20名以上、論文数10報	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		D	D	D	C	B	B	A	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	見込み	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> D					
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 客員教員数23名 論文数7報		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 客員教員数23名 論文数10報					

【2016年度の進捗状況について】 ←

2016年9月現在の調査結果をもとに本票を作成しており、今後の発表見込みと評価尺度を勘案しこの数字とした。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**、いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・ 今後の外部機関との連携の進展が期待されます。(E)
- ・ 目標とその数値が具体的に設定されていて評価できます。(G)
- ・ 理工学研究科の特長を生かした適切な目標であり、評価尺度の数量化により適切でかつわかりやすくなっています。(H)